

(752) フラックス入りワイヤを用いた塗装鋼板水平すみ肉溶接部の気孔発生に及ぼすワイヤ組成及びシールドガス組成の影響

大同特殊鋼(株)中央研究所

渡辺敏幸
○竹内宥公
冷 水 孝夫

1. 緒言

塗装鋼板水平すみ肉溶接部の気孔(ピット、ブローホール)防止法として種々の提案が行われているが、十分な効果は得られていない。そこで、ワイヤ組成及びシールドガス組成の気孔発生に及ぼす影響を調査し、塗装鋼板水平すみ肉溶接部の気孔発生を効果的に防止する方法を検討した。

2. 実験方法

塗膜厚20μ、30μの軟鋼板を機械加工し、Fig.1に示す溶接試験片を作製し、1st側をシーリング溶接後、Al含有量の異なるルチール系フラックス入りワイヤを用い、Table 1に示す条件で2nd側を水平すみ肉溶接した。溶接後、2ndビードのスラグを除去し、ビード表面のピット長さからEq.(1)によりピット発生率(RP)を求めた。次に、1stビードを除去し、2ndビードに切欠加工を行ない、溶接試験片を折り曲げ、破面上のブローホール寸法から、Eq.(2)でブローホール発生率(RB)を求めた。

$$RP = \frac{\sum (\text{ピット長さ})}{\text{ビード長さ}} \times 100 (\%) \quad \text{Eq. (1)}$$

$$RB = \frac{\sum (\text{ブローホール寸法})}{\text{ビード長さ}} \times 100 (\%) \quad \text{Eq. (2)}$$

3. 実験結果

(1) CO₂に比べCO₂-O₂では大巾にブローホール発生率が低

下したが、CO₂-H₂ではピット発生率及びブローホール発生率が著しく増加した。(Table 2)

(2) CO₂-O₂のO₂含有量が増加するにつれてブローホール発生率は減少し、塗膜厚30μの場合、O₂含有量5 vol %以上でブローホール発生率は10%以下であった。(Fig.2)

(3) フラックス入りワイヤのAl含有量が増加するにつれてブローホール発生率は減少し、塗膜厚20μ、シールドガスCO₂-8%O₂の場合、Al含有量0.3 wt %以上で、ブローホール発生率10%以下であった。(Fig.3)

4. 結言

ルチール系フラックス入りワイヤのAl含有量及びCO₂-O₂シールドガスのO₂含有量を適正化することにより、塗装鋼板水平すみ肉溶接部の気孔発生を抑制できた。

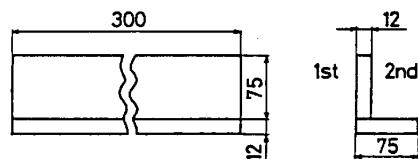


Fig.1 Dimension of horizontal fillet welding specimen

Table 1 Welding conditions	
Welding current	260 A, 300 A
Arc voltage	28 V, 32 V
Welding speed	40 cm/min
Shielding gas	25 l/min(CO ₂ -CO ₂ -O ₂ -H ₂)
Torch angle	45 deg.
Wire off-set	1.0 mm
Wire extension	20 mm

Table 2 Effect of shielding gas compositions on relative pit and blow-hole

Shielding gas	Relative pit (%)	Relative blow-hole (%)
CO ₂	0.0	18.2
CO ₂ -8%O ₂	0.0	3.3
CO ₂ -8%H ₂	47.3	76.9

Note : Al content of welding wire 0.5 wt%
Thickness of coating 20 μ
Welding current 260 A

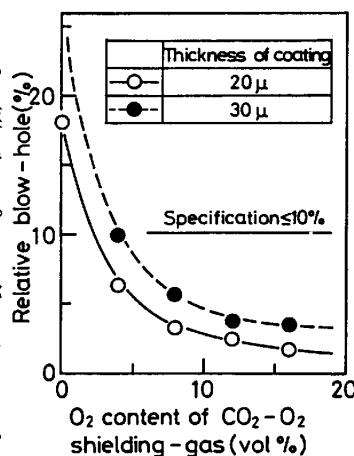


Fig.2 Effect of O₂ content of CO₂-O₂ shielding gas on relative blow-hole in horizontal fillet welds of coated steel plates

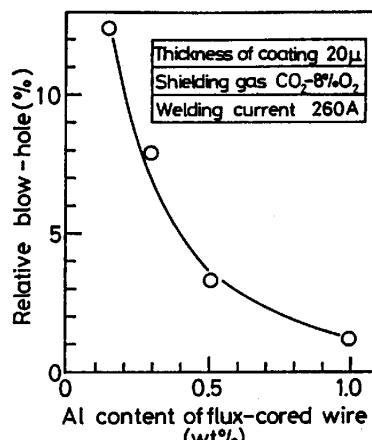


Fig.3 Effect of Al content of flux-cored wire on relative blow-hole in horizontal fillet welds of coated steel plates